

中等度の アルツハイマー型認知症の治療

案浦康高 医療法人 案浦クリニック

目的

中等度アルツハイマー型認知症に対する貼付剤(リバスチグミン)の効果を確認する。

方法

リバスチグミン4.5mg(平成24年1月5日～平成24年2月18日)→9.0mg(平成24年2月19日～平成24年3月20日)→13.5mg(平成24年3月21日～平成24年4月20日)→18mg(平成24年4月21日～現在)と徐々に増量し、定期的にMMSEを実施した。

事例

77歳女性

診断

アルツハイマー型認知症

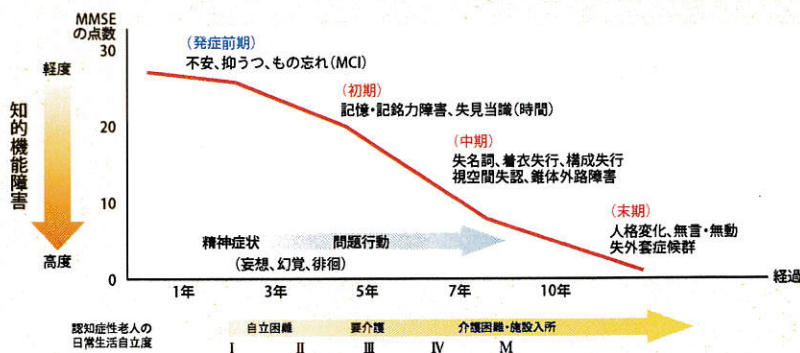
倫理的配慮

本人及び家族に口頭で許可を得るとともに、所属長の承諾を得た。

経過及び結果

平成23年1月までは簡単な食事を作ることができていた。また平成23年夏までは近くのスーパーまで自分で買い物に行っていた。夏が過ぎて物忘れが始まった。帰宅時に鍵を抜き忘れ、付けたままにしていたり、入浴したかどうか思い出せなかったなど。そのうち尿失禁の為、布団や衣服を汚すことが多くなってきた。東京在住の次男が里帰りした際に上記状態を見かねて平成24年1月4日当院に相談に訪れた。MMSE13点(24年1月10日)であり、特に短期記憶障害が著明であった。リバスチグミンと通所リハビリテーションによる治療を開始し、MMSE15点(24年3月1日)→22点(24年4月7日)→20点(24年9月6日)→22点(24年12月15日)

アルツハイマー型認知症の経過を追った症状の変化



考察

貼付剤(リバスチグミン)は、中等度のアルツハイマー型認知症に有効とされているが、今回の検証により効果が確認された。またリバスチグミン投与と同時に通所リハビリテーションなどの非薬物療法も同時進行で行っていくことで治療の相乗効果が得られるのではないかと考える。

参考文献 * 認知症の臨床評価について 遠藤英俊(国立長寿医療研究センター)より引用